

2025

SUPER GT
RACE REPORT

Rd.2

5.3[sat] - 4[sun]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] sat 晴れ / sun 晴れ

[spectators] 82,500人 (sat 33,300人 / sun 49,200人)

FUJI SPEEDWAY



Rd.1 OKAYAMA >>>> APR 12-13

Rd.2 FUJI >>>>>>>> MAY 03-04

Rd.3 SEPANG >>>>>> JUN 27-28

Rd.4 FUJI >>>>>>>> AUG 02-03

Rd.5 SUZUKA >>>>>> AUG 23-24

Rd.6 SUGO >>>>>>>> SEP 20-21

Rd.7 AUTOPOLIS >>> OCT 18-19

Rd.8 MOTEGI >>>>>> NOV 01-02

TOM'S



接戦の展開のなか、7位入賞。
2戦連続でポイントを獲得し、
次戦以降に期待が高まる走りを披露。

2025 AUTOBACS SUPER GT Round2 FUJI GT 3Hours RACE GW SPECIAL が、5月3日(土・祝)、4日(日・祝)に静岡県富士スピードウェイで行われた。#37 Deloitte TOM'S GR Supra (笹原右京/ジュリアーノ・アレジ) は、予選6番手から一時は表彰台争いに加わるパフォーマンスをみせた。最終ステイントでライバルの先行を許し、7位でフィニッシュとなったが、次戦以降へ期待が高まる走りで3時間レースを終えた。



37

TGR TEAM Deloitte TOM'S






UKYO SASAHARA 笹原 右京
GIULIANO ALESI ジュリアーノ・アレジ

Rd.2 Result	
Qualifying	6 位
>>	
Race	7 位
Driver Standings	6 位
Team Standings	6 位

Qualifying 1	笹原 : P4 / 1'26.875
Qualifying 2	アレジ : P6 / 1'26.552
Race	笹原 : 1'30.029
ファステストラップタイム	アレジ : 1'30.503

QUALIFYING

天候：晴れ／気温：20℃／路面温度：33℃



公式練習からトップ10圏内につけ、 接戦の予選で6番グリッドを獲得。 決勝に向けて弾みをつける。

毎年、ゴールデンウィーク期間中に開催される富士スピードウェイでの Round2。搬入日は荒天に見舞われたが、予選日になると朝から青空が広がる晴天となった。前回の岡山大会で5位に入り、12kgのサクセスウェイトを搭載して今大会に臨む 37 号車は、朝の公式練習から順調に周回を重ね、7 番手タイムを記録。昨シーズンの課題でもあった予選ペースの向上に手応えを感じており、ドライバー 2 人も自信を持って予選に臨んだ。

全 15 台から上位 10 台に絞られる Q1 は笹原が担当。わずかに失敗したところがあったとはいうものの、1 分 26 秒 875 で 4 番手につける速さを披露した。続く Q2 では、アレジがマシンに乗り込みタイムアタックを行う。ライバルとのタイム差が拮抗するなか、本人も完璧な走りではなかったと振り返るが、それでもセクター 1 で全体ベストタイムを記録する走りで 1 分 26 秒 552 で 6 番手。レースペースには自信を持っているだけに、表彰台を狙える位置を獲得し、決勝に向けて弾みをつける結果となった。

Race

天候：晴れ／気温：24℃／路面温度：38℃

前半は好ペースを刻むも、 最終的に7位でゴール。 次戦以降の躍進を誓う。



3 時間で争われた決勝レース。6 番グリッドからスタートする 37 号車は笹原が前半と中盤を担当した。1 周目からライバルたちと激しいポジション争いを繰り広げると、その後は各車両とも様子見の展開となり、笹原もタイヤと燃費をセーブしながら周回した。42 周目に 1 度目のピットストップを済ませると、レース中盤には 5 番手に浮上し、前を走るライバルとの差を縮めていった。

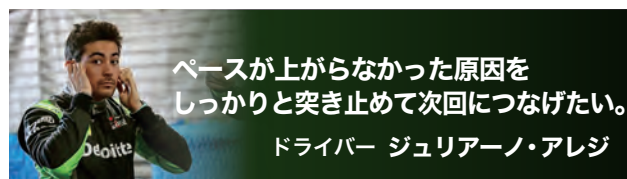
1 人のドライバーが 2 時間以上走ることできないため、スタートから 2 時間を迎える直前に 2 度目のピットインを行い、アレジに交代。ここまでのペースを考えると、表彰台圏内への進出も期待されたが、ピットアウトしてから思うようにペースを上げることができず、後方から迫ってきたライバルに競り負ける展開が続いた。アレジも必死に順位を守ろうと粘り強く走ったが、最終的に 7 位でフィニッシュ。2 戦連続でポイントを獲得できたが、中盤までの好ペースを考えると悔しい結果となった。それでも、予選ペースの向上など手応えを掴んで、次戦の Round3 マレーシア大会に臨む。



2番手まで行ける手応えがあったので、正直、かなり悔しいです。

ドライバー 菅原 右京

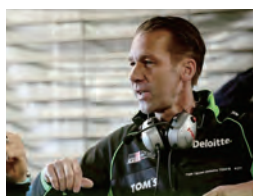
今回は走り出しからクルマのバランスが良く、予選に向けて微調整をするだけで対応でき、決勝に対してはかなり自信を持っていました。第1スティントは他車に対し接近しているけど仕掛けどころがない状態でしたが、隙があれば順位を上げられる準備をしていました。それが第2スティントで活きたと思います。燃費も稼ぎながら走っていたので、うまくいけば2番手は見えていました。この結果は正直悔しいです。まずは最終スティントで苦戦した原因を究明したいです。



ペースが上がらなかった原因をしっかりと突き止めて次回につなげたい。

ドライバー ジュリアーノ・アレジ

決勝は右京のスティントまでは良いペースで走れていましたが、僕のスティントになってからタイヤのグリップがないとすることが多かったです。決勝前のウォームアップではすごく良いフィーリングだったので、かなり期待していたのですが、いざ乗ってみると全く違った感覚になっていました。なぜこうなってしまったのか、しっかりとデータを見直して原因を突き止めたいと思います。その中でも予選のタイムなどポジティブな部分があったので、それをしっかり次戦に繋げたいです。



チーム監督 ミハエル・クルム

まずは予選で6番手を獲得できたのはポジティブなことです。前回の岡山では予選14番手に終わりましたが、今回は僅差の戦いで6番手につけることができました。決勝はアップダウンの激しい展開になりました。途中まではすごく良いペースで走っていたので、かなり期待していましたが、最後はグリップダウンが大きかったです。なぜこうなったのか、原因を調べないといけません。今回はクルマの仕上がりも良かったので、この結果は正直残念です。



チームオーナー 館 信秀

最後のジュリアーノのスティントで思うようにスピードが乗り切らなかったところはありませんが、前半の菅原は良かったですし、表彰台争いにも加わっていたので、これまでの37号車から一段と強くなってきているなと実感しました。また、決勝だけでなく予選のパフォーマンスも良くなってきています。これは今後に向けても非常に良いことですし、1号車と常に近いところを走っているというのも嬉しいことです。今回は悔しいところもありましたが、次回以降で表彰台や優勝を狙っていきたいです。

Deloitte.

BINGO

AYET F3

ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-D

BRIDGESTONE

OKANO Express

ほうらいせん
www.houraisen.co.jp

ISSE

BRIDE

長海鷗

S&D TAMA GROUP

ENKEI

ThreeBond

HRX

Mizuno

MECHANIX WEAR